

## 経営資源ごとの指標の概要

経営資源	指標	現状	ねらい
ヒト	業務にやりがいを感じている職員の割合 ：90%以上(R8)	R3：85.7% (事務系81.5%、技術系89.2%、 技労89.5%)	✓ 働きがい・やりがいを重視した取組が必要  ✓ 業務の見直し・効率化により生み出したヒト・財源の配分をシフトし、 新たな業務等に取り組むことでやりがいも上げていく
	時間外勤務年間550時間超の職員の割合 ：5%以下(R8)	R3：8.3% (243人/2,915人)	✓ 年間540時間(月45h)を超えて時間外勤務を命じる場合の事務 分担見直しや応援体制構築を徹底  ✓ 業務の見直し・効率化に取り組み、チームワークで対応していくことで、 特定の所属や職員への業務の集中を是正する
	デジタル技術などによる申請等利便性向上率 ：100.0%(R8)	現在把握する数値なし (例)オンライン申請実施済/予定 49.1% (55件/112件)	✓ 業務の見直し・効率化において、外部からの申請等の業務を対象に 重点的に取り組む
モノ	施設総量(建築物延床面積)の適正化 ：H27より増加しない(R7)	R2：1,456,948㎡ H27：1,476,693㎡	✓ 施設を適切に維持管理していくためにも、今後の人口減少等に伴う ニーズの変化等を踏まえながら、維持管理費や更新費をできる限り抑 制していく必要
	指定管理者制度導入施設の利用者数 ：毎年度R4より増	R3：6,147,786人 R2：5,438,591人 ～R元：700万人程度の横ばい	✓ 民間事業者の創意工夫を一層引き出し、県の施設が十分活用さ れ、地域全体の活性化を図っていくことが重要
財源	財政調整基金残高【調整中】 ：毎年度⑩億円程度を維持	7月補正後のR4末：193億円	✓ 次期方針期間中は、財政調整基金の活用を前提として収支改善 の取組を行う  ✓ 不測の事態に備え、どの程度の残高を確保するかということは、財政 運営上のリスク管理として非常に重要
	臨財債を除く県債残高【調整中】 ：⑩億円程度	7月補正後のR4末：6,900億円	✓ R元以降、臨時財政対策債を除く県債残高は増加傾向  ✓ 今後、どの程度の社会資本整備が可能かを見極めながら、将来の 公債費負担を極力軽減することが重要
情報	県政への関心度 ：71.0%(R6)	R3：64.7% (関心がある：18.4%、 まあまあ関心がある：46.3%)	✓ 県民の幅広い意見やニーズを的確に把握し、県政に反映していくこと で、県民の県政への関心を高める
	県が行う情報発信や情報提供に対する満足度 ：前年度より増	現在把握する数値なし ※参考 認知状況(R3) 広報誌「滋賀プラスワン」：78.5% 県ホームページ：71.9%	✓ 情報の適切な発信・公開に努め、県政に対する県民の信頼および 理解につなげる